

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	5学年・後期・必修
	対象学科・専攻	土木工学科
景観設計 (Landscape Design)	担当教員	星野 祐司 (Hoshino, Yuji) 岡松 道雄 (Okamatu, Mitio)
	教員室	土木工学科棟2階 非常勤講師控室 (Tel. 42-9125)
	E-Mail	maeno@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習・PBL / 履修単位 / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 30回	
〔本科目の目標〕 土木工学における景観デザインの位置づけ・必要性を学び、土木構造物や土木空間の利用者である市民が、どの様に体験し、味わうのか、普遍的な枠組みについて理解を深める。さらに、風景の中で設計者が操作可能なものを把握し、模型製作などを通じて、デザインの実践的な演習を行うこと目標とする		
〔本科目の位置付け〕 本科目では、いままで学んできた土木工学の各分野を、景観デザインという新しい視点から統合し、実践する。そのため、土木工学全般への深い理解が必要であり、さらに、デザインに関連する隣接分野 (建築やインテリア、グラフィックなど) へも関心を寄せておく必要がある。本科目はPBL形式の学習法で進めていく。		
〔学習上の留意点〕 教科書や講義の内容を呑みにせず、必ず自分の目と足で実体験を通じて確認すること。デザイン教育は、教室で完結するものではないので、普段の生活から意識的・批判的に景観や構造物を眺め、自分なりのアイデアを練っておくこと		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 景観工学の基礎	10	橋景観デザインの位置づけ、景観とは何か？ 景観把握モデル、視点と視点場が説明できる 人間の視知覚特性が説明できる 空間のスケール・ヒューマンスケールが説明できる
2. 景観のイメージ	6	プロポーションとコンポジションが説明できる ゲシュタルト心理学 (図と地) が説明できる 都市のイメージが説明できる Prospect-Refuge理論、親水象徴理論が説明できる
3. デザイン事例	8	デザインプロセスが説明できる 河川デザインの事例が説明できる
4. 設計演習	36	現地調査の方法が説明できる コンセプトの立案が説明できる 設計の進め方、模型の作り方が説明できる プレゼンテーション、評価
---後期期末試験---		授業項目 1 ~ 4について達成度を確認する
試験答案の返却・解説		各試験において間違った部分を理解できる
〔教科書〕風景のとらえ方・つくり方 - 九州実践編 - 共立出版		
〔参考書・補助教材〕セメントの科学 内田老鶴園 大門 正機		
〔成績評価の基準〕中間・期末試験成績 (80%) + レポート成績 (10%) - 授業態度 (最大20%)		
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-b 3-c 3-d		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 3-3		
〔JABEEとの関連〕 (d)(2)c)		